

作成日：2026年2月18日

現在までに医聖会に
解剖献体をされた方・ご家族へのお知らせ
(献体を用いた解剖研究について)

本学では、学生に対する解剖献体を用いた教育に加えて、医師に対する手術手技教育、解剖研究を実施しております。これらの研究は、生前に献体にご同意を頂いた方々の解剖献体を用いたものですが、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（令和3年3月23日制定 令和3年6月30日施行）」に死体試料も含まれるとの記載がされたため、改めてお知らせさせて頂いております。対象となる方のお一人おひとりから再度直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開するとともに、参加拒否の機会を保障することとされています。この研究に関するお問い合わせ、また、ご自身・ご家族のご献体が研究として利用されることを了解されない場合は、以下の問い合わせ先にご連絡ください。利用の拒否を申し出られても何ら不利益を被ることはありません。

1. 研究課題名：四肢・体幹における骨・関節・血管・神経の形態学的特徴および空間的關係に関する包括的肉眼解剖学的研究
2. 研究期間：研究機関の長の許可日～2029年3月31日
3. 研究機関：産業医科大学病院 外傷再建センター
4. 研究責任者：診療教授 善家 雄吉
5. 研究の目的：産業医科大学では、当大学に献体されたご遺体を、医学生の解剖実習に加え、医学教育および解剖学的研究に活用しています。これらは、平成24年5月に日本外科学会・日本解剖学会の連名で作成された「臨床医学の教育及び研究における死体解剖のガイドライン」に準拠して実施されています。本学における区分としては、手技の習得を目的とした解剖を「教育」、新たな知見の創出や医学的検証を目的としたものを「研究」、人体の構造理解を目的としたものを「肉眼解剖」と定義しています。また、解剖献体を用いて得られた知見は、医学の発展および教育資源として活用されることを目的としています。本研究では、解剖献体を用いて、四肢および体幹における骨・関節・血管・神経の形態学的特徴および空間的關係に

ついて、以下の事項を包括的に検証します。具体的には、(1) 骨・関節の形態学的類似性および構造的対応関係の検証。(2) 各種解剖構造の各種筋間および周辺諸構造からの視認範囲・観察可能領域および到達可能領域の比較。(3) 教科書的知見と実際の解剖学的所見との差異の明確化。これらの検討を通じて、形態学的知見の体系化、医学教育への活用、ならびに学術的発信に資することを目的とします。

6. 研究の方法：本研究は、四肢および体幹における骨・関節・神経・血管・腱等の解剖学的構造を対象とし、解剖献体を用いて段階的に構造を展開し、肉眼的観察およびX線透視画像を併用して詳細に検討する肉眼解剖学的研究です。対象とする部位は、形態学的特徴や構造間の位置関係の把握が重要と考えられる領域とし、各構造の同定、走行、分岐形態および相互の位置関係について、肉眼的および画像的に評価を行います。
7. 個人情報の取り扱い：本研究では個人情報は取り扱いません。データは対象者が特定できないように、本研究の成果の発表に関し、写真・動画撮影等においては個人を特定できる部位(顔およびその他特徴的な身体的特徴)に関しては加工等を施し、特定できないよう配慮する。また、研究責任者の厳重な管理の下で、対象者番号を付して匿名化し、その番号と実名の対応表とともに鍵のかかる救急・集中治療科居室(大学病院本館3階)に保管します。本研究で収集したデータは、当該論文等の発表後10年間保管し、匿名化を確認した上で廃棄します。利用の拒否を申し出られた場合は、本研究の対象から除外いたします。また、利用の拒否を申し出られても何ら不利益を被ることはありません。
8. 問い合わせ先：産業医科大学病院 外傷再建センター 善家 雄吉 (Tel: 093-603-1611)
9. その他：本研究参加による直接的利益はありません。対象者への経済的負担や謝礼はありません。本研究の利益相反は、産業医科大学利益相反委員会の承認を得ており、公正性を保ちます。